

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 25 年 7 月 25 日 (2013.7.25)

【公表番号】特表 2011-511530 (P2011-511530A)  
 【公表日】平成 23 年 4 月 7 日 (2011.4.7)  
 【年通号数】公開・登録公報 2011-014  
 【出願番号】特願 2010-544264 (P2010-544264)  
 【国際特許分類】

H 0 4 W 52/56 (2009.01)

H 0 4 W 52/40 (2009.01)

【 F I 】

H 0 4 Q 7/00 4 5 6

H 0 4 Q 7/00 4 4 8

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 25 年 6 月 7 日 (2013.6.7)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 4 3  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【 0 0 4 3 】

TPC コマンド破棄が、TPC コマンドが移動機で 1 つだけ受信される非ソフトハンドオーバーユーザに対する性能に与える影響が小さいという事実について検討する。これは、全ての TPC コマンドが等しい誤り確率を有するとした場合、1 つの TPC コマンドが誤って受信される確率が、 $N$  ( $N > 1$ ) の TPC コマンドのうちの少なくとも 1 つの TPC コマンドが誤って受信される確率よりずっと低いという事実に起因する。一方、TPC コマンドが多く受信（より厳密には、採用）されるほど、品質も良くなる（すなわち、誤り確率が低くなる）ためには、それらの TPC コマンドが、少なくとも 1 つの TPC コマンドが誤って受信される確率に等しい確率を有する必要がある。複数の TPC コマンドがユーザ端末で受信される場合に、選択的な TPC コマンド破棄を含む手順を用いることができる。従って、選択的 TPC コマンド破棄手順は、TPC 破棄閾値が、破棄条件が評価される TPC コマンドの数に基づくように構成される。事実、この構成によれば、信頼できない TPC コマンドが少数しか存在しない場合には、より高い TPC 誤り率を許容するように破棄閾値が緩和されることになる。TPC 破棄の選択は、ユーザ端末が  $N$  個の TPC コマンドを同時に受信した場合、以下のように設定されてよい。

- ・全ての TPC コマンドが予め設定された破棄閾値  $Thr_n$  より高い誤り率を有する場合には、 $N$  個の TPC コマンド全てを破棄
- ・そうでない場合、 $N-1$  個の TPC コマンド全てが予め設定された破棄閾値  $Thr_{n-1}$  より高い誤り率を有する場合には、その  $N-1$  個の TPC コマンドを破棄
- ・そうでない場合、 $N-m$  個の TPC コマンド全てが予め設定された破棄閾値  $Thr_{n-m}$  より高い誤り率を有する場合には、その  $N-m$  個の TPC コマンドを破棄
- ・そうでない場合、最悪の TPC コマンドが予め設定された破棄閾値  $Thr_1$  より高い誤り率を有する場合には、最悪の TPC コマンドを破棄